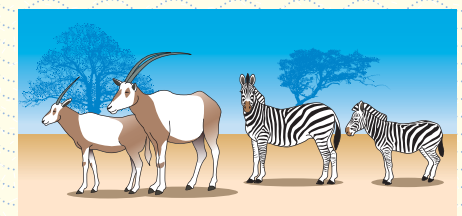


高度な防災力を備えた東京を実現するためには、道路の整備が不可欠です



「みんなと一緒に」

多摩動物公園 高原 由妃

暑い夏が過ぎ、動物たちや周りの風景も落ち着いた雰囲気になってきた頃、サバンナ放飼場は少し賑やかになりました。10月に入り、今年生まれのシロオリックスのブルーム(4/6生まれ、メス)とグレイビーシマウマのラガー(7/6生まれ、オス)が、翌11月にはアミメキリンのユリア(8/6生まれ、メス)が広いサバンナ放飼場にデビューしたのです。サバンナ放飼場では、アフリカの草食動物(キリン、シマウマ、オリックス)と鳥類(ダチョウ、ペリカン、シバシコウ)が同じ運動場で過ごしています。普段はのんびりしているように見える動物たちも、他の種類の仲間たちと仲良くやっていくためには、サバンナでのルールを学び、それなりの振る舞いをすることが必要です。生まれてまもなくの子どもたちは、体力がなく、体の大きな同居人(?)が多数いる広いサバンナ放飼場では危険がいっぱいです。実は、ブルームは9月に一度サバンナデビューをしたのですが、他の動物とのトラブルで右角を折る怪我をしてしまいました。しばらく静養の後、再チャレンジして現在にいたっています。怖い思いをしたせいか以前はのんびりした動きが多かったのですが、今ではオトナたちと一緒に機敏に動きます。ラガーは最初、おっかなびっくりで母親について歩いていましたが、比較的体力があり、要領も良いので、すぐに広い放飼場を存分に動きまわるようになりました。ユリアは他の動物より背が高いので攻撃されることはほとんどありませんが、それでもいちばん新参者なので、何かとオドオドして危なっかしく見えます。こんな時はお姉さんキリンたちが近くで見守ってくれています。こうして毎日仲間のみんなと一緒に過ごすことで、群れで生活する動物としてオトナの仲間入りをし、立派なサバンナの住人になっていくのです。



【シロオリックス】 【ユリア 群れ入り】 【グレイビーシマウマ】

～水族園の“かお”～

葛西臨海水族園
オセレイテッド アイスフィッシュ(ジャンメコオリウオ)

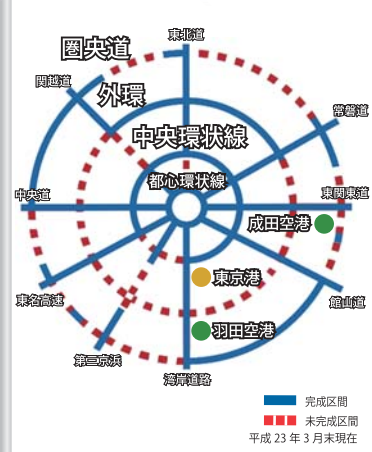
2011年8月から展示を開始した、透明な血液を持つ南極の魚です。水族館で生きた個体を展示するのは、世界初です！
写真 8月26日撮影



東京の道路ネットワークの現状 災害時に物資輸送の要となる道路の整備がまだまだ残されている

東日本大震災では、救援物資の輸送や迅速な復旧・復興活動を支える道路ネットワークの重要性が明らかになりました。東京では、三環状道路や幹線道路の整備に重点的に取り組む必要があります！！

三環状道路の整備状況



幹線道路の整備状況



未だ5割程度の整備状況です

未整備の区間が数多く残されています

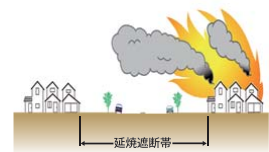
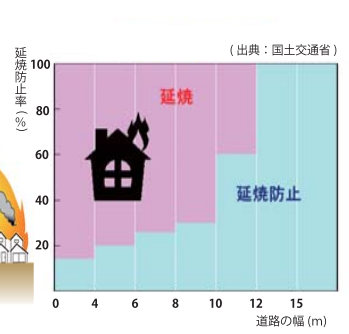
道路整備により、都市の防災空間を確保 延焼遮断帯の形成、避難路・緊急車両の通行確保

道路が延焼遮断の重要な役割を果たします！！

安全な避難路や緊急車両の通行確保のためにも、道路整備は必要です！！

阪神淡路大震災では、幅員12mの道路で、延焼が防止されました。

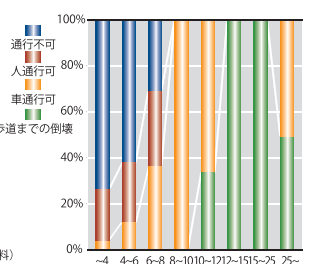
道路の幅と延焼防止率



阪神淡路大震災では、幅員8m未満の道路のほとんどで車両の通行が不能となりました。

道路幅員と道路閉塞との関係

倒壊被害が甚大であった国道2号沿線の約26haを対象についての調査結果

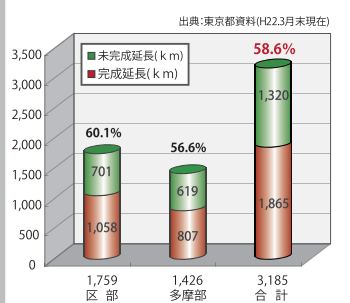


阪神淡路大震災における道路沿道の建物倒壊状況

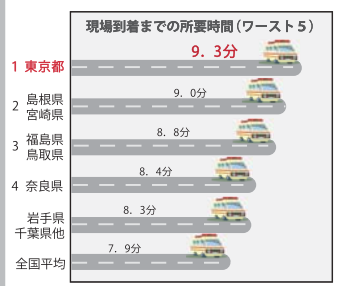


(出典：財団法人地震予知総合研究振興会資料) 出典：新時代のまちづくり・みちづくり 都市整備研究会

都市計画道路の整備率は、約6割程度に留まっています



119番通報から現場到着までにかかる時間は全国でワースト1位です



東京都内には、延焼遮断帯の形成を急ぐ必要のある木密地域が数多く残されています

